

大阪公立大学

医学部リハビリテーション学科

理学療法学専攻
作業療法学専攻

人間の「いろいろ」を科学する

寄り添うのは一人ひとりの人生だ

2023

Department of Rehabilitation Science



大阪公立大学
Osaka Metropolitan University

リハビリテーション学科

Department of Rehabilitation Science



カラダを動かす楽しさを科学する。
その人らしい
生き方をデザインする。

地域に根差した高度な学びの中で知る
人体を科学する面白さと
一人ひとりの人生に寄り添うやりがい。

学びのポイント

最先端医学とエビデンスに立脚した 時代を先取りするリハビリテーション教育を実現

最新の知見に基づく医学科との合同授業や相互研究を通して、エビデンスに立脚したリハビリテーション教育を推し進めます。地域社会が求める、生活習慣に起因する複雑な疾患や合併症等の予防・治療はもとより、超高齢社会にも多角的かつ的確に対応できる高い資質の理学療法士および作業療法士を育成します。

研究の最前線で国際的に 活躍できる人材の育成

学術的探究心や自己学習能力を修得するための研究環境やカリキュラムを整え、研究の最前線で国際的に活躍できる人材を育成します。



きめ細かな教育と 充実した臨床実習

少人数制の特徴を生かし、一人ひとりの専門的知識への興味や進路に応じた学習機会の提供を行うとともに、専門性の高い近畿圏の病院等で実践的な実習を行います。



4年間の流れ

1年次

基幹教育科目、専門科目(学部共通・学科共通)によって、リハビリテーション学の基礎となる豊かな学士力を養う。

2年次

理学療法学・作業療法学専攻が協同して、学科共通専門科目を学ぶことを通じて、リハビリテーション専門職者の役割を理解する。

3年次

少人数制による専攻専門科目の学びや臨床実習によって、専門職としての知識・技術を修得する。

4年次

専攻専門科目や臨床実習での実践的教育、さらに研究法や卒業研究を通して、臨床および研究の最前線で活躍できる能力を修得する。

基幹教育科目

学部共通専門科目
学科共通専門科目

学科共通専門科目

専攻専門科目

研究法
卒業研究

学士(保健学)

※成績優秀者を対象とした学士・修士5年一貫プログラムがあります。(7ページ参照)

理学療法学専攻

Course of Physical Therapy



人間の運動を科学する

面白さを知り、

実践的な問題解決能力を

身につける

PICK UP!

特徴的な授業



理学療法評価学総合実習

地域の障がい者や高齢者に協力いただき、実践的な理学療法評価について体験し、知識と技術を修得します。

学生の声
学生同士で実技の練習をするのとは全然違い緊張しますが、とても勉強になります。



運動学実習

さまざまな機器を活用し、動作を客観的に見ることの楽しさを体験しながら、理学療法において重要な動作分析を学びます。

学生の声
普段何気なく行っている動作を分析するのは難しいですが、実践的で楽しい授業です。



障がい者スポーツ指導論

障がい者のスポーツ活動を学び、障がいに対する理解を深め、実習を交えながら、生活支援としての認識を高めます。

学生の声
パラリンピック競技を実際に体験でき、その面白さや奥深さを感じられる授業です。

理学療法学専攻の多様な学び

STUDENT VOICE



ゼミでの卒業研究を通して、理学療法学についての知見をより広く、より深く学ぶことができます。また私は学士・修士5年一貫プログラムを利用しており、より濃密で充実した研究活動に取り組んでいます。学べる分野が幅広く、研究するための機器や設備も整っているため、自分がやりたいことに積極的にチャレンジできます。

後藤 大輝さん



私は1年生の頃から、大学のボランティアセンターや障がい者スポーツクラブでの活動を通し、地域イベントでの高齢者や市役所の方との交流、パラリンピック種目の「ポッチャ」の選手のサポートなどに関わっています。地域の方々の声を聞き、学校で得た理学療法の知識や技術を生かすことができるとも良い機会となっています。

湯川 翔太さん



本学の実習施設には大学病院から地域の病院までさまざまな分野の病院があります。また、訪問リハビリテーション見学実習では、より生活に密着した在宅での理学療法を経験することができます。さまざまな分野での経験によって視野が広がり、学校で学んだ知識が臨床実習での経験とつながることですらに理解を深めることができます。

八色 優菜さん

研究紹介 RESEARCH

講師 森野 佐芳梨

産前産後の女性に対する理学療法アプローチに関する研究

妊娠すると多くの女性が腰や骨盤周りの痛みで悩まれますが、妊娠中は禁忌事項が多く、治療が難しい現状があります。妊娠中の腰痛や骨盤周りの痛みの原因には、体重の増加や妊娠性ホルモンの影響による関節の弛緩等の身体変化が関連しています。これに対し、理学療法アプローチによって非侵襲的に、かつその場しのぎではなく継続的に痛みの緩和ができるよう、調査と研究を行っています。



助教 上田 哲也

「医療」×「建築」の融合を図る

高齢者や障がい者等の住まいに関する研究を行っています。理学療法分野からの視点として、加齢に伴う心身機能の変化に着目することが重要であると考えています。その上で、建築、工学、生活科学分野等他分野と協働し、サステナブルな（住み続けられる）住まいの提案を進めています。多職種でチームを組み、「医療」×「建築」の融合を図っていき、その成果を地域へ還元していくことをめざしています。



主な就職先 (進学先含む)

- リハビリテーションセンター
- 大学病院 ●総合病院
- 介護老人保健施設 ●教育・研究機関
- 大学院への進学

取得可能な資格・受験資格

- 理学療法士国家試験受験資格
- 中級障がい者スポーツ指導員

国家試験 合格率

2019年度
100%
全国平均 86.4%

2020年度
96.0%
全国平均 79.0%

2021年度

100%
全国平均 79.6%

※大阪府立大学実績

作業療法学専攻

Course of Occupational Therapy



生活を科学し
理解することで、
充実した日常生活の
再構築を支援する

PICK UP!

特徴的な授業



作業療法評価学実習

作業療法評価の目的や意義、手法を、主に実技練習を通じて理解し、修得することをめざします。

学生の声 実技の練習が多く、学生同士や時には先輩に手伝ってもらいながら練習します。



作業科学実習

作業療法の治療手段となる、レクリエーションや園芸活動について、作業実施の計画や指導方法を修得します。

学生の声 福祉農園での実習などもあり、実践的に、楽しく・おいしく学べる授業です。



発達障害作業療法学

発達障害作業療法の主要対象である脳性麻痺児や知的障害児、自閉スペクトラム症児に対する作業療法を、演習・実習を交えて学びます。

学生の声 小テストが多く少し大変ですが、子ども好きにはたまらない授業です。

作業療法学専攻の多様な学び

STUDENT VOICE



作業療法では、病気や障がいではなく「人間」を中心に考えます。その人らしい生活を送ることができるよう、さまざまな角度からの支援を行います。また、作業療法は、対象者の方の人生をより良いものに変える力を持っています。「その人らしさ」について対象者の方と一緒に考え、温かい支援ができるのも魅力の一つだと思います。

田門 優奈さん



作業療法では、さまざまな学問の知識・技術に加えて、自分の特技や趣味の利用も含めて、対象者の方の暮らしや生き方の支援を創造的に考えていく必要があります。本学の授業や幅広い領域での実習を通じて、対象者の方が希望するその人らしい暮らしや生き方にあった支援を創造的に考えていくコツを学ぶことができます。

稲岡 桃子さん



作業療法士は、数ある医療職の中でも特に対象者の方の暮らしや生き方に大きく関わることができる職業です。さらに、作業療法士は他の医療職とチームで協働することにより相互にその効果を高め、対象者の方の暮らしや生き方に貢献することができます。本学には、将来に向かって「仲間とともに頑張れる」環境が揃っています。

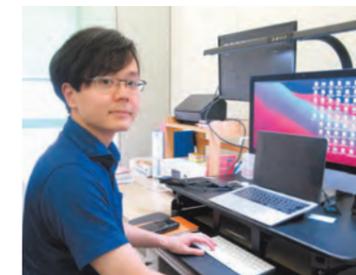
中川 夏生さん

研究紹介 RESEARCH

講師 田中 寛之

認知症の人に対するリハビリテーションに関する研究

認知症を呈する多くの疾患は、根治が難しいと言われています。そのため、作業療法をはじめとした非薬物的なリハビリテーションの重要性が増しています。我々の研究室では、臨床現場の作業療法士と協働し、認知症の人の生活障害や行動心理症状に対するリハビリテーション介入手法、認知機能障害、生活の質を測定する評価手法の開発の研究を行っており、臨床と研究をつなぐ成果を挙げることをめざします。



講師 中岡 和代

特別支援教育や発達領域の作業療法に関する研究

特別支援教育や発達領域の作業療法に関する研究に取り組んでいます。これまで、自閉スペクトラム症児の食に関する行動の評価尺度を開発してきました。現在は、発達領域の作業療法で関わるすべてのお子さんの行動特性、感覚特性、認知特性などについて分析し、食に関する行動の支援法の開発を進めています。また、お子さんやご家族の遠隔支援の実現に向けAIを用いた動作解析の開発などにも取り組んでいます。



主な就職先 (進学先含む)

- 病院 ● リハビリテーションセンター
- 訪問リハビリテーション施設
- 介護老人保健施設 ● 児童発達支援センター
- 大学院への進学

取得可能な資格・受験資格

- 作業療法士国家試験受験資格
- 中級障がい者スポーツ指導員

国家試験 合格率

2019年度	100%	2021年度	95.6%
	全国平均 87.3%		全国平均 80.5%
2020年度	100%		
	全国平均 81.3%		

※大阪府立大学実績

リハビリテーション学研究科

Graduate School of Rehabilitation Science



現代社会で求められる
より生活に密着した
新しいリハビリテーション学を

PICK UP!

リハビリテーション学研究科の3つの強み

1. 研究施設・設備の充実

三次元動作解析装置、筋機能評価運動装置、超音波画像診断装置、脳波計、ドライブシミュレーターなど、最新の研究設備を整えています。

2. 共同研究の充実

学内の他学部・他研究科や、大学を中心とした国内外の研究施設、さらにさまざまな医療機関や企業との共同研究に取り組み、多くの成果を挙げています。

3. 地域貢献の充実

医療機関や特別支援学校、自治体等と共同し、さまざまな地域貢献活動に取り組んでいます。これらの取り組みは、研究フィールドとしても活用しており、今後さらなる発展が見込まれます。

学士・修士5年一貫プログラム

本研究科では、博士前期課程科目の先取り履修と早期修了を組み合わせ、学科入学から通算5年間で博士前期課程を修了する「学士・修士5年一貫プログラム」を設置しています。具体的には、リハビリテーション学科理学療法学専攻または作業療法学専攻に3年以上在学し、必修専門基礎科目および必修専門科目の単位を、優秀な成績で修得した学生を対象とし、学士課程の4年次前期から本研究科博士前期課程科目の「先取り履修」と研究活動を開始します。通常の大学院入学試験を経て本研究科博士前期課程に入学し、優れた業績を挙げて1年間で早期履修をめざすプログラムです。

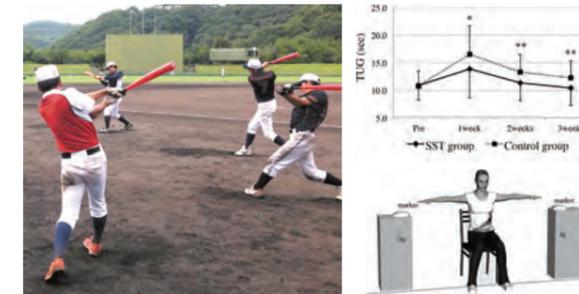
特色ある研究テーマ

「人」のパフォーマンス向上を目的とした研究

理学療法学専攻
岩田 晃 教授



人はそれぞれの生活の中で必要とされる能力が異なります。例えば、スポーツ選手は速く走ることや、高く跳ぶことなどハイレベルな運動パフォーマンスが必要とされ、一方、高齢者は安全に動作することや、速く歩くことなど、基本的な運動能力が求められます。一見すると、これらの運動は大きく異なるように感じますが、その規定要因やメカニズムには多くの共通点が存在します。私は、運動パフォーマンスの規定要因を多面的に探索し、組み合わせることで、高齢者からスポーツ選手まで、「人」の運動パフォーマンス向上をめざす研究に取り組んでいます。



認知機能低下抑制の研究、地域在住高齢者の転倒予防

作業療法学専攻
横井 賀津志 教授



私の研究は、高齢者の健康寿命を伸ばすためのフィールドワークです。中でも、寝たきりや要介護の状態になる原因の上位を占める「認知症」と「転倒」に関する予防活動に力を入れています。認知症予防では、「朝起きたら自分で入れたコーヒーを飲む」とか「ペットと一緒に寝る」など、「これができれば、自分らしい」というその人が大切にしている作業と一緒に見つけ、継続するための手立てを開発しています。さらに、生活行動の中に認知刺激を組み込む研究も開始しています。転倒予防では、新聞紙を用いた体操「転ばぬ先の新聞棒」を開発し普及に努め、健康寿命を伸ばすことに貢献しています。



STUDENT VOICE

医療の発展に向けて、研鑽を積む

私は、理学療法士をめざして大学でリハビリテーションを学ぶ中で、より良い医療の提供にはそれらの根拠となる研究の発展が不可欠であることを実感し、大学院でリハビリテーション学研究に取り組むことを決めました。現在は、運動参加が困難な虚弱高齢者でも簡単に取り組める新たなリハビリテーション手法として、「低負荷運動」や「他動運動」による高齢者の歩行機能改善をめざした研究を行っています。さらに、所属研究室が企業と共同で取り組んでいる「中高年の歩行改善に向けたサービス・プロダクトの研究開発プロジェクト」に参加するなど、充実した研究生生活を送っています。

博士後期課程 金山 篤樹 さん



作業療法の学びを深め、より多くの人を笑顔に

作業療法士として臨床経験を積む中で、一人でも多くの患者様から笑顔を引き出したいという思いが強くなり、評価手法や治療法、ヒトの脳内活動のメカニズムを研究しようと大学院進学を決めました。授業で研究に関する基礎知識や先生方の研究を学び、ゼミナールで指導教員や先輩達からアドバイスをいただく中で、研究内容に関する知見と視野の広がりを感じました。現在は大阪大学と共同で、VR（バーチャルリアリティ）を用いた回想法（昔を懐かしむことで認知症症状の改善をめざす治療法）の研究を行っています。国内外の学会発表や論文執筆など、未来につながる貴重な経験を積んでおります。

博士後期課程 上野 慶太 さん

CAMPUS LIFE

羽曳野キャンパス

ACCESS



桜並木



学生の声

校舎に向かうレンガ道は、4月になると桜の木が新入生を歓迎してくれます。

三次元動作解析実験室



学生の声

高精度な装置で動作をいろんな角度から分析できるので面白いです。授業や卒業研究でも使います。

生活機能・環境支援研究室



学生の声

トランポリンやブランコなどの遊具がたくさんあり、つつい遊びたくなる教室です。

STUDENT VOICE



多様な価値観を持つ仲間と切磋琢磨できる環境が魅力

理学療法学専攻の魅力は、少人数クラスで、先輩後輩問わず仲が良く、切磋琢磨し合えるところです。クラスの雰囲気はアットホームで毎日みんなと過ごすことが楽しく、さまざまな考えを持った仲間と日々刺激を受けています。また実習科目が多く、一人ひとり丁寧な教育を受けることができます。将来理学療法士として働く時に必要な技術はもちろん、多くの人と関わることで学ぶこともたくさんあります。そんな毎日楽しくたくさん学べる素敵な環境で、一緒に大学生を送りましょう！

理学療法学専攻 柳澤 聖奈さん



ハイレベルで実践的な学びが、夢へと向かう後押しに

作業療法学専攻は25人と少人数で、家族のような存在です。主体性を持ち、目標に向かって努力している学生が多く、自分自身の向上心も高まります。先生方は日本の作業療法を牽引する著名な方が多く、直接指導を受けられることは大変ありがたいです。勉強や実習は想像以上に大変ですが、同級生の支えや先生方の丁寧なアドバイスが支えになっています。ボランティアなどに参加する機会もあり、実践的に学んだことは将来の臨床の場でも生かされると思います。

作業療法学専攻 宮脇 佑実さん

EVENT

4 April

- 入学式
- 専攻別懇親会



入学式



懇親会（理学療法学専攻）



懇親会（作業療法学専攻）

5 May

- 友好祭 ※



合宿（理学療法学専攻）



合宿（作業療法学専攻）

6 June

7 July



バーベキュー

8 August

- オープンキャンパス



オープンキャンパス（学生相談）



オープンキャンパス（体験ブース）



オープンキャンパス（模擬授業）

9 September

10 October

- 杏樹祭 ※



杏樹祭

11 November

- 白鷺祭 ※



卒業研究発表会



鍋パーティー

12 December

- 卒業論文審査会



国家試験合格祈願

1 January

2 February

- 理学療法士国家試験
- 作業療法士国家試験



学位記授与式



卒業記念パーティー

3 March

- 学位記授与式
- 卒業記念パーティー

※ 大阪府立大学のイベント



大阪公立大学
Osaka Metropolitan University

